

お元気ですか？

ogenkidesuka

第75号

公立富岡総合
病院ニュース

腹水濃縮再静注法について／骨密度検査のおすすめ

夏休み病院探検について／防災訓練を実施しました

シリーズ職場紹介（栄養科）／研修医の紹介

地域医療連携だより

「月に雁」 撮影者：黒澤 恵子



発行

富岡地域医療事務組合

公立富岡総合病院

〒370-2393 群馬県富岡市富岡2073-1

☎ 0274-63-2111 📠 0274-64-1406

✉ tomihp@mail.gunma.med.or.jp

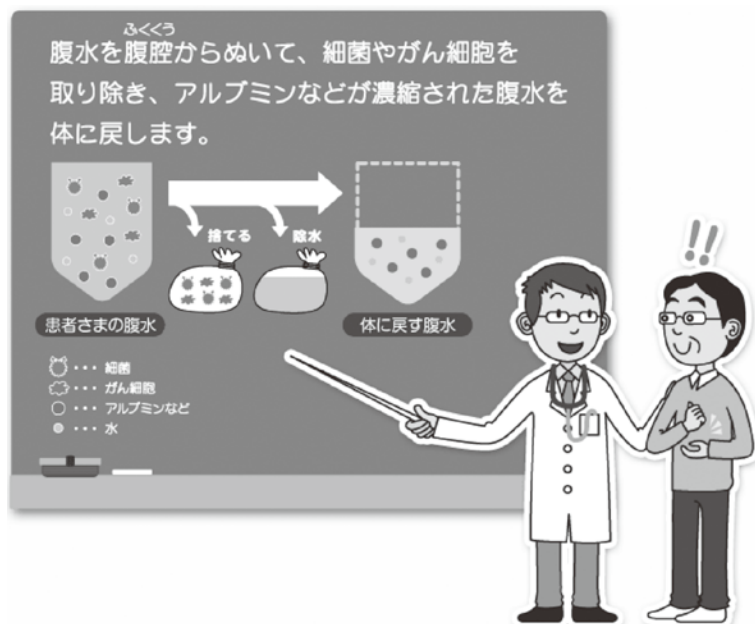
🌐 <http://www.tomioka-hosp.jp>

腹水濃縮

再静注法

について

消化器科 齋藤 秀一



今回は当院でも導入されている難治性腹水の治療である腹水濃縮再静注法について説明します。

1 腹水って何ですか？

もともと人の腹腔内には内臓相互の摩擦を少なくし、消化管の運動を円滑にするための少量の体液が存在しています。腹水は生理的限界を超えて腹腔内に貯留した液体のことを指します。

2 腹水の原因について

血液中の蛋白が減少することにより、液体をバランスよく血管内に保たせる機能が低下することで腹水がおきます。これは肝硬変やネフローゼ症候群、低栄養などで起こりうるものです。原因としてはその他にも、がん性腹水、門脈圧亢進、ホルモンバランスや心不全などがあり、さまざまな要因で腹水は悪化していきます。

3 腹水の治療

腹水の原因として最も多いのは肝硬変による腹水です。このタイプの腹水は漏出性といわれ、まずは塩分制限から始めます。ガイドラインでは7g/日の塩分と1000ml以内の水分制限が推奨されます。その後利尿剤の内服薬を行い、段階を経て利尿剤を調整していきます。それらの治療に抵抗性がある場合は難治性と判断し、腹水穿刺によるドレナージを行います。大量の腹水排液は腎不全などを誘発する危険があるとされてきましたが、血漿増量剤といわれる血液製剤（アルブミン）を点滴することで、腎不全のリスクは回避されることが分かっています。そのような治療でも改善の認められない症例に対して、腹水濾過濃縮再静注法があります。

4 腹水濾過濃縮再静注法とは？

肝硬変やがんなどによって貯まった腹水（又は胸水）を濾過濃縮して、アルブミンなどの有用なタンパク成分を回収する治療法です。これにより、腹水排液の際に必要なであったアルブミン点滴を減らし、腹水排液の1回量を増やすことが可能となりました。また、利尿剤の効果が乏しいがん性腹水、胸水の患者さんへも適応があり症状緩和へも期待が高まります。

このように腹水といってもさまざまな原因、治療段階があります。腹水は食欲不振や日常生活動作の低下などを引き起こす可能性があり治療は早い段階で必要であると考えております。もし症状に不安がある場合は遠慮なくご相談していただくのがいいでしょう。

骨粗しょう症の早期発見に 骨密度検査のおすすめ

技術部放射線技術科 高間 敏行

あなたの骨は大丈夫ですか？

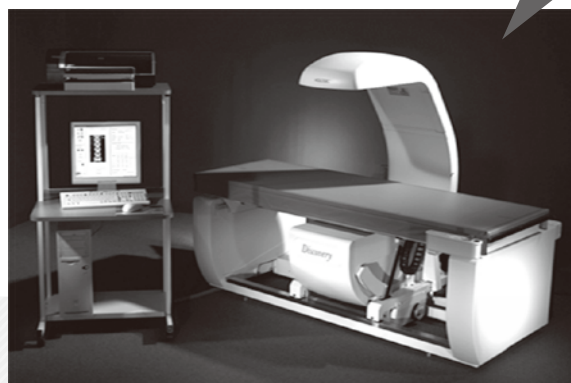
腰痛や骨折の原因となる「骨粗しょう症」その診断には
正確な骨密度測定による早期発見がとても大切です。

骨密度測定装置(DEXA法)

以前までは末梢骨(前腕骨)で測定していましたが、今度の装置から腰椎・大腿骨頸部での測定になり非常に精度の高い測定ができるようになりました。

骨粗しょう症ガイドラインでは、骨折の発生頻度が高い部位である腰椎・大腿骨頸部での測定を推奨しています。また今後10年間の骨折リスクを評価する方法としてWHOが開発したFRAX(フラックス)でも入力値として大腿骨頸部の骨密度を使用しています。

当院では、米国ホロジック社の最新の装置「Discovery(ディスカバリー)」を導入し、以前よりも正確にかつ安全に骨密度の診断が行えるようになりました。



～DEXA法(デキサ)とは～

2種の異なるX線を照射し、骨と軟部組織の吸収率の差で骨密度を測定する方法という意味です。被曝量は極めて少なく迅速かつ精度の高い測定ができ、骨密度測定の標準とされています。

骨密度の測定は主に骨粗しょう症の診断や治療に使われます

骨粗しょう症とは、骨の量が減ってスカスカになり、骨折しやすくなる病気です。

骨は丈夫さを保つために、古くてもろくなった部分を壊して、新しく強い骨に常に作り変えています。若い頃はこのバランスがとれています。年をとったり、女性の場合は閉経を迎えて女性ホルモンの量が減ると、バランスが崩れ、骨がもろくなってしまいます。特に年をとってから骨折した経験があったり、家族に骨粗しょう症の人がいる場合は注意が必要です。

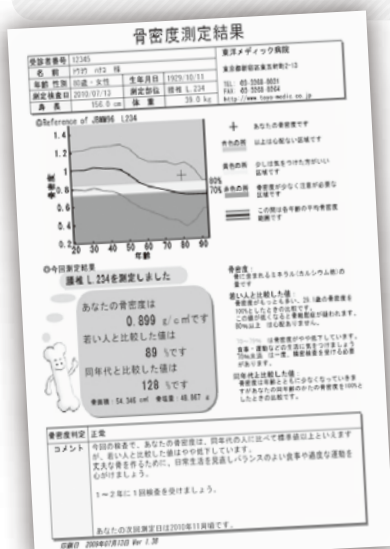
当院では腰椎と大腿骨頸部2ヶ所骨密度を測定します

痛みも無く、健診者は健診着のまま、外来の方は検査着に着替えていただき仰向けに動かないで寝ているだけの検査です。検査時間は10分程度です。少ないX線を利用しているので1回の検査での被曝は0.1mSvくらいです(胸部写真一枚程度)。

検査データは保存されますので定期的な検査で正確な診断も行えます。

当院の短期人間ドックではコースに含まれています。(日帰りの方もオプションで検査を受けられます。)

診療科では主治医やかかりつけ医に相談してください。





夏休み 病院探検 を開催しました。

7月28日(木) 17時30分～19時に小学生を対象とした「第1回夏休み病院探検」を開催しました。

当院は富岡甘楽医療圏で唯一の急性期医療をこなす総合病院ですが、予防医学に対しても積極的に取り組み、地域へ貢献することを病院の大切なコンセプトと考えています。

その取り組みの一つとして、子供の頃から自分の健康について考えるきっかけ作りとして、また、病院での仕事体験をしてもらい興味をもってもらうことで、将来お医者さんや看護師さんになり医療業界を支えていく人材になつてもらいたいという想いで、この「病院探検」を企画しました。

今年が初めての開催でしたが、当日は、小学校2～6年生の児童とその保護者20組40名にご参加いただきました。



した。

お子さんには、「ぐんまちゃんチーム」「お富ちゃんチーム」の2つグループに分かれて、血液浄化室、高気圧酸素治療室、放射線治療室、検査室の4つの部門を回り、様々な体験をしていただき、楽しみながら「いのち」や「健康」の大切さを伝えました。

血液浄化室では、オレンジジュースを人工腎臓に流し、濾過する実験を体験してもらいました。高気圧酸素治療室では、カプセルに実際に入ってもらい、治療体験してもらいました。放射線治療室では、ニャンコ先生をリニアック装置にいれて、ニャンコ先生の体の中の画像を見てもらいました。検査室では、超音波エコー体験を行い、実際に体の中のエコー画像を見もらいました。普段、目にするこのない医療機器に、実際に触れてみたり、医



療技術者から直接話を聞きながら模擬体験するなど、本格的な病院探検として小学生の参加者はもちろん、同行した保護者の皆さんからも好評をいただくことができました。参加してくれたお子さんからは「将来お医者さんになる」「看護師さんになりたい」といった嬉しい声を聞くこともできました。最後に、院長から修了証書を授与し、記念撮影を行いました。

各部门の医療技術者が、お子さんに興味深く体験してもらえようと、工夫を凝らした企画を練っていた、普段、病院で働くスタッフでも、ここまで詳しく他の職種の仕事を見学する機会もないので、私自身も興奮しながら一緒に院内を散策しました。

来年度も、皆さんに、より楽しんでいただけるような企画を実施していきたいと考えています。

臨床工学科 係長 齋藤慎



粉末消火器



水消火器

平成28年度 第1回目の 防火訓練 を実施しました



消防法に基づく年2回の防火訓練のうち、第1回目の訓練を7月27日と8月4日に行いました。今回の訓練は2日間に分けて実施し、1日目は粉末消火器・訓練用水消火器・消火栓を使用した放水訓練を行い、2日目は消防隊による消防はしご車を使用した避難訓練を行いました。

1日目の消火訓練は病院北側にあるエネルギーセンター周辺にて、4月に入職した新人職員を中心に57名が参加して行われました。的に向かつて噴射して各自消火器・消火栓の使用方法を確認しました。



ストレッチャーで救助



バケットで救助

例年の消火訓練では訓練用の水消火器と消火栓の2種類を使用した訓練を行っていましたが、今回は粉末消火器も準備してビニール袋の中に噴射し、実際の消火器の噴射とはどのようなものなのか、参加者に体験させました。

2日目の訓練は消防隊とのはしご車を使用した避難訓練を行いました。訓練は3B病棟で火災が発生し、病棟北側のベランダに複数人取り残されたという想定で消防隊がはしご車を使用して救助するという流れで行われました。患者としてダミー人形が重症患者役、職員3名が軽症患者役として参加



救助ロープ

しました。軽症の3名は消防隊にサポートしてもらいながらはしご車の先端に付けた救助用ロープとバケットを使用して地上へ避難し、重症のダミー人形はストレッチャーを使用して救助されました。このとき救助開始から終了までわずか16分ほどと消防隊の手際の良さ、技術の高さに驚きました。

今回の避難訓練では取り残された人を救助という想定で行いました。当院の病棟では内部の階段と外の非常階段の2ルートから避難することができ、取り残されるという可能性は低いのですが、実際はどんな火災が起こるか分かりません。あらゆる火災想定で訓練を行い、また消防隊とも合同で訓練することによって職員の防火意識を高めていきたいと思っています。

職場紹介 栄養科



診療の支援部門である栄養科は、「安全で美味しく疾病の治療に有効な給食の提供」をモットーに、管理栄養士6人、栄養士1人、調理師12人、調理補助6人、事務員1名の計26人で構成されています。

栄養科の業務は主に、給食管理業務と栄養管理業務の大きく2つに分けられます。



調理のプロによる
鋭い目利き！（怖い！？）

【1. 給食管理業務】

給食提供に関する業務です。

食材の購入は、業務課の協力を得ながら新鮮な食材を適正な価格で購入し、食材納入時には調理師による厳しい目で検収作業を日々行っています。

また、衛生管理には細心の注意を払っており、感染対策チーム（ICCT）指導のもと、手指消毒のテストや、検査科による調理前後の食材及び、調理器具を対象とした病原菌の有無の検査を年2回行っています。

献立は、栄養価を考慮することは基より季節の食材を使いながら、味付け、彩り、食感にも配慮し、患者さんの状態に合った給食を提供するために、年4回の嗜好調査を行っています。

【2. 栄養管理業務】

主に栄養指導や栄養サポートチーム（以下NST）に関する業務です。

栄養指導は、病気の治療のために食事療法が必要な患者さんから、個別に食習慣や生活状況を事細かくお聞きし、どのようにしたら食事療法を続けていけるのかを、患者さんやご家族と共に相談しながらプランを組み立てます。

食事療法は患者さんにとって治療上重要なことですが、食事は生活の楽しみの1つでもあるため、心の負担が大きくならないよう、効果的で治療の励みになるような栄養指導を心掛けています。

【その他、NST事務局】

また、栄養科はNSTの事務局として、最新の栄養に関する情報の発信や、NST専門の管理栄養士が、医師、看護師、薬剤師、検査技師、言語聴覚士、歯科衛生士らと協力し、日々入院患者さんの栄養状態の変動に注目しながら、栄養状態の改善と早期退院に向け、各病棟で毎週回診を行っています。

このように栄養科は、給食を提供するだけでなく、多くの部署と力を合わせながら運営している部署なのです。

今後も、全患者さんの栄養状態の維持・改善と、美味しく健康的な給食の提供を目指して、チーム医療で取り組んでまいります！

栄養科 金井 崇

【栄養指導風景】
笑顔、丁寧、親切、
分かりやすく！





研修医1年目の加藤舞です。出身地は富岡市、出身大学は群馬大学です。趣味は山登りです。病院からも近い妙義山は、好きな山のひとつです。研修が始まって早半年、まだまだ未熟ではありますが、先生方はもちろん、病院スタッフの方々にも手助けしていただきながら、日々勉強、実践を繰り返しています。それぞれの患者さんにとって、よりよい道を一緒に探っていける医師になりたいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。

加藤 舞

研修医の紹介



研修医1年目の大貫祐史です。出身は群馬県、出身高校は高崎高校で出身大学は群馬大学です。趣味はスポーツ鑑賞や水泳、ランニングなどです。早いもので研修が始まってもう半年が過ぎてしまいました。少しは病院に慣れることができたと思っていますが、まだまだわからないことが多く、ご指導頂いている先生方をはじめ、周りの病院スタッフの方に支えられながら毎日働いています。これからも先生方やスタッフの皆様にはご迷惑お掛けすることも多いと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

大貫 祐史



研修医二年目の吉成夫希子です。高校までを東京で過ごし、大学で初めて群馬の地を踏み、昨年の四月に富岡での研修が始まって、早一年半が過ぎました。慣れない環境でのスタートでしたが、先生方を始め病院のスタッフの方々や、なにより患者様に支えられて今日までの研修を行うことができました。残された研修期間は短いですが、少しでも実力がつけられるよう、精一杯取り組んで参りますので、よろしくお願い致します。

吉成 夫希子

研修医2年目の塚越智啓です。生まれは高崎で出身大学は日本医科大学です。趣味は映画鑑賞で、好きな映画は「ショーシャンクの空に」です。1年間研修させて頂いて、最初と比べると少し自信がついてきましたが、まだまだ勉強不足な自分を日々感じます。富岡総合病院での研修は残りわずかとなってしまいましたが、残された時間を有意義に使い、少しでも良い医師になるために学ぶべきことを吸収していきたいと思っています。

塚越 智啓



研修医二年目の原田航です。出身地は東京都、出身大学は群馬大学です。趣味はテニスと野鳥観察です。好きな引退したテニス選手はジョン・マッケンローです。好きな猛禽類はオジロワシです。研修を開始して一年半が過ぎ、出来ることも増えましたが、未熟な点を自覚することもまだまだ多いです。今後とも良い医師となれるよう研鑽して参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

原田 航

充実した
研修医生活を送って下さい。





地域医療連携だより

地域がん診療連携拠点病院強化事業
公立富岡総合病院 市民公開講座

がんの診断 ~もしもの時の備えあり~
伝えておこうあなたの思い



場 所 甘楽町文化会館(甘楽町白倉1322-1)

時 間 平成28年11月18日(金)

午後6時30分~午後8時00分(開場午後6時00分)

講師 西川 満則 先生

国立長寿医療研究センター 緩和ケア診療部

あなたの考え、思いを
大切な家族に伝えておくことの
重要性をお話したいと思います。

講師
紹介

島根医科大学医学部卒業
2000年より国立長寿医療研究センター
緩和ケア診療部(EOL ケアチーム)
在宅連携医療部・在宅医療地域連携診療部
地域医療連携室長
国立長寿医療研究センターにおけるエンド・オブ・
ライフケアチームの実践、アドバンス・ケア・
プランニングの組織的アプローチなど

入場無料
一般・医療福祉
関係者

お問い合わせ先

公立富岡総合病院
がん相談支援センター
Tel.0274-63-2111